

糖尿病外来通院中の患者がとらえた看護活動の効果について

花園 淳¹ 黒田久美子² 西山久美子¹ 野口美和子²

要 旨 糖尿病外来における看護活動場面で自ら援助を求めた患者を対象として、患者がとらえる看護活動の「効果」はどのようなものであるかを分析した。看護活動を利用してよかったこと、うれしかったこと、利用している理由についての質問により得られた患者の回答内容は、看護の効果という視点で分析すると、情緒に関すること、知識・情報に関すること、血糖測定に関すること、という3つの側面からとらえられるものが大部分であった。さらに、糖尿病に対する意識と自己管理に対する意識という視点から、患者がとらえた効果の関連性を位置づけした。

長崎大医療技短大紀 8: 75-79, 1994

Key words : 糖尿病, 外来看護, 自己管理, 看護の効果

I. はじめに

千葉大学医学部附属病院第二内科糖尿病専門外来では、昭和57年より同大学看護学部の教官と大学院生による糖尿病外来看護活動（以下、本看護活動）が行われている。本看護活動は、患者が現在、あるいは将来の人生の充実に向けて、安定した気持ちで自己管理していけることに目的をおき、個別援助を行っている。活動の内容は、簡易血糖測定器による血糖測定、自己血糖測定と自己注射の指導、患者からの相談や質問の検討やアドバイス、食事や運動の個別指導、患者会活動への協力である。

受診行動は自己管理行動の一つと考えられる¹⁾が、今回、これを支えていると思われる外来看護活動に着目し、患者からみた看護活動の効果进行分析した。

II. 方 法

H 6年5月11日から6月1日の間に本看護活動場面で自ら血糖測定を求めた患者23名を対象に、①本看護活動を利用している期間②本看護活動を利用して「よかったこと」③本看護活動を利用して「うれしかったこと」④本看護活動を「利用している理由」について面接調査を行った。次に、本看護活動に関わりのある千葉大学看護学部教授、助手、大学院生（3名）、研修生（2名）の計7名によって、患者の回答を、患者からみた本看護活動の効果とし、以下の方法で分析した。①「よかったこと」について、個々の回答者のワンセンテンスずつの回答の意味を読みとった。②同じような意味を持つと思われる回答内容のグループに分類した。③それぞれのグループに命名した。④各回答内容グループについてそれぞれの内容の違いをはっきりさせるために関連性を検討しグループ間の位置づけをした。⑤「うれしかったこと」「利用している理由」についても、それぞれ、上記分析方法を施行した。⑥位置づけした効果を一つの図にまとめた。

III. 結 果

患者からみた看護の効果として分類した結果を表1から3に示した。命名されたカテゴリーは、情緒に関すること、知識・情報に関すること、血糖測定に関すること、といういずれかの側面からとらえられるものが大部分であった。

患者からみた看護活動の効果の位置づけを図1に示した。まず糖尿病に対する意識を横軸として、情緒に関すること、知識・情報に関すること、血糖測定に関することという3つの効果の側面を左から右へ並べた。これは、糖尿病に対する意識を基準にすると、患者は、看護婦と話をして関わりを持ち情緒的安定を得、そして糖尿病について学習してみようという意識を持ち、その後実際に血糖測定をしてみようという意識を持つという方向に進むと考えたからである。次に、自己管理に対する意識を縦軸としてうれしかったこと、よかったこと、利用している理由を下から上へと並べた。これは、患者の回答内容から、自己管理に対する意識を基準に考えるとその発展に伴い、うれしかったこと→よかったこと→利用している理由という方向で表現されると考えられたからである。なお、図中の矢印は、それぞれの回答内容において、自己管理に、より効果的であると思われる方向を表す。

IV. 考 察

① 情緒に関する効果について

外来看護は一般に診療の補助が大部分を占めており何らかのシステムを設けない状況では患者と充分な関わりの時間を持つことは難しい。療養の主役は患者である糖尿病において援助者としての看護婦の役割は大きいが患者のニードに耳を傾ける対応はなかなかできない。またコミュニケーション不足から不安を抱いて診療機関を変える患者もみられる²⁾。

1 長崎大学医療技術短期大学部看護学科

2 千葉大学看護学部成人老人看護学講座

本看護活動では患者のニードに耳を傾ける場が確保されている。その結果、患者は看護婦と関われる場面を持つことができ、「相談を受けるために」その場にいる看護婦との関わりによって尊重された対応を受けたと感じることができ、それによって自己管理に前向きに取り組むことができると考えられる。

② 知識・情報に関する効果について

糖尿病外来に通院している患者はこれまでに、糖尿病についての一般的な知識や治療については何らかの指導を受けてきていると思われるが、本看護活動では「今」「このことで」どうしていいかわからない、どうすればうまくいくのかかわからないなどといった「自分の問題」について「自分のために」教えてもらう、説明してもらう、アドバイスしてもらう、間違っていることを修正してもらう、という機会が得られている。さらにその知識や情報を自己管理実行に役立てたり、知識を得たことで不安が軽減し自信につながることを実感でき、療養を続けることができると考えられる。

③ 血糖測定に関する効果について

糖尿病外来通院患者の受診間隔はほぼ4週間に1回であるため、患者が検査結果を知るのは測定の1カ月後の診察時である。しかし、本看護活動場面で簡易血糖測定器による血糖測定を利用するとその場で血糖値を知ることができる。さらに、その値をもとに看護婦と共に最近の生活を振り返り、食べ過ぎや運動不足に気づき、自己管理を見直すきっかけとなっていることがわかる。このようにして自分の血糖値を知ることができれば自分のコ

ントロール状態に関心を持つことができるようになったり自己管理に対する自己評価ができて満足感が得られ、今後のやる気にもつながるのではないと思われる。また、家庭で自己血糖測定している場合は、その値とつき合わせて、食事時間による変動を見たり、自己血糖測定の技術の点検に利用することもでき、自己管理が支えられていると思われる。

V. おわりに

今回の分析で、患者からみた効果は、情緒に関すること、知識・情報に関すること、血糖測定に関することの3側面からとらえることができた。今後、これらの効果と患者背景との関連性や、患者がとらえた効果をもたらす看護活動についても検討を重ねていきたい。

謝 辞

本看護活動の効果の分析にあたりご協力いただきました千葉大学大学院看護学研究科の小野幸子さん、清水安子さん、中村直子さん、同研修生松浦治代さんに心より感謝申し上げます。

文 献

- 1) 堀田饒：外来での治療・管理の実際，モダンメディスン，(6)，125-127，1988.
- 2) 石清水由紀子：外来看護における情報収集とケア，月刊ナーシング，10(6)，52-55，1990.

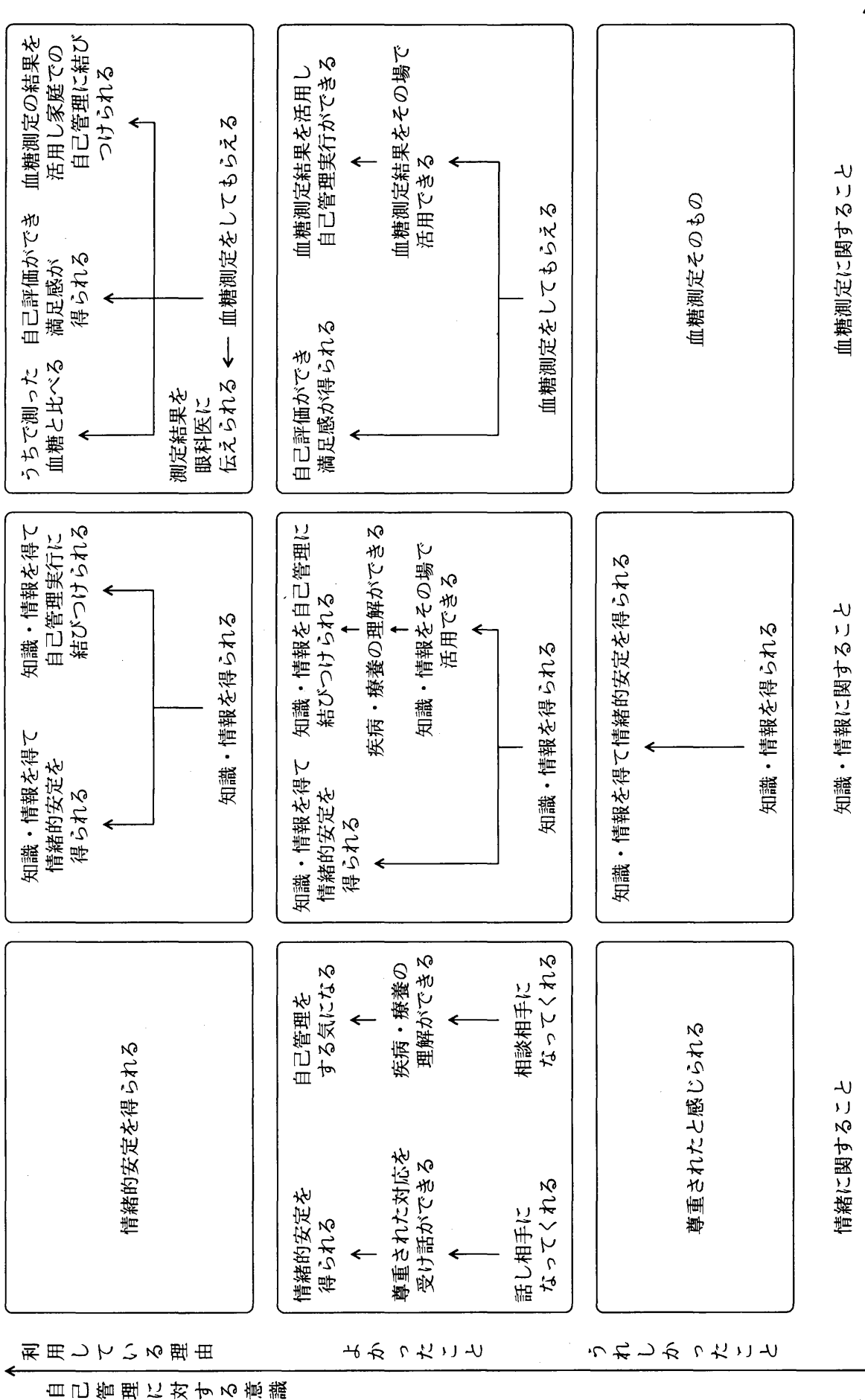


図1. 患者からみた看護活動の効果

表1. 糖尿病外来における本看護活動を利用してよかったこと

効果の側面	患者の回答内容グループの命名	患者の回答の内容
情緒に 関する こと	話し相手になってくれる 尊重された対応を受け話ができる 情緒的安定を得られる 相談相手になってくれる 疾病・療養の理解ができる 自己管理実行をする気になる	<ul style="list-style-type: none"> ・話し相手 ・若い話し相手 ・病状の話をする ・話を聞いてくれる ・Dr. に話せないことを話せる ・暗くならないで話せる ・快く迎えられたと感じる ・親切な対応にほっとする ・悪くならないように検査してもらう ・一緒に考えられる ・相談にのってもらう ・話をしてわかる ・（一緒に考えて）気をつけるようになる
知識・ 情報 に 関する こと	知識・情報を得られる 知識・情報を得て情緒的安定を得られる 知識・情報を得てその場で活用できる 疾病・療養の理解ができる 知識・情報を自己管理実行に結びつけられる	<ul style="list-style-type: none"> ・教えてくれる ・勧めてくれる ・受け入れやすく教えてくれる ・教えてもらう ・食事のこもとを教えてもらう ・勧めてもらおう ・アドバイスを聞ける ・情報をもらえる ・（食事療法のアドバイスを）優しくしてもらう ・迷ったとき安心する ・話を聞いて間違いに気づく ・話を聞いて考える ・話を聞いて療養方法がわかる ・話を聞いて低血糖がわかる ・食事のことがわかる ・細かいことがわかる ・自己管理できるように学べる
血糖測定に 関すること	血糖測定をしてもらえる 血糖測定の結果をその場で活用できる 自己評価ができ、満足感が得られる 血糖測定結果を活用し自己管理実行に結びつけられる	<ul style="list-style-type: none"> ・血糖がすぐわかる ・血糖がわかって反省できる ・血糖がわかって考えられる ・血糖がわかって理由がわかる ・血糖がわかって励みになる ・血糖がわかって安心する ・血糖がわかって目安ができる ・気をつける目標になる ・血糖がわかって気をつける ・目安ができブレキがかけられる
その他	Dr. との橋渡しになってくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・代弁してくれる

糖尿病外来患者がとらえた看護活動

表2. 糖尿病外来における本看護活動を利用してうれしかったこと

効果の側面	患者の回答内容 グループの命名	患者の回答の内容
情緒に関する こと	尊重されたと感じられる	<ul style="list-style-type: none"> ・ お話ししてくれること ・ 入院したとき見舞いに来てくれること ・ 帰り際の「元気でね」のメール ・ 「一の緒に旅行に行こうね」「元気でした？」などの声かけ ・ 親切な対応を受けたこと ・ 親切だから
知識・情報に関する こと	<p>知識・情報を得られる</p> <p>知識・情報を得て情緒的安定を得られる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明してくれること ・ 専門の人に話を聞いてほっとできる
血糖測定に関する こと	血糖測定の結果そのもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 血糖が高くないこと ・ 血糖が低いこと ・ 血糖が安定していること ・ 血糖が下がっていること ・ 血糖が低いのが続くこと ・ 食事に気をつけたりして血糖が低いとき
その他	ない	<ul style="list-style-type: none"> ・ まだない ・ 別がない ・ ない

表3. 糖尿病外来における本看護活動を利用している理由

効果の側面	患者の回答内容 グループの命名	患者の回答の内容
情緒に関する こと	情緒的安定を得られる	<ul style="list-style-type: none"> ・国立だし、いい人たちがいる ・信頼できる人がいる ・信頼している人たちだから ・相談できる ・看護婦に会って話がしたい ・D r. より話しやすい ・好きだから ・安心していただけるから ・血糖上がるの恐いから
知識・情報に関する こと	<p>知識・情報を得られる</p> <p>知識・情報を得て情緒的安定を得られる</p> <p>知識・情報を得られ自己管理に結びつけられる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いたことが戻ってくる ・針の使い方を習うため ・頼りがいがある ・1人でくよくよ考えても話さないことには通じない ・説明してもらって血糖下げるため
血糖測定に関する こと	<p>血糖測定をしてもらえる</p> <p>うちで測った血糖と比べる</p> <p>血糖測定の結果を活用し自己管理に結びつけられる</p> <p>自己評価ができ満足感が得られる</p> <p>測定結果をD r. に伝えられる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・血糖を測るため ・その時の結果を知るため ・技術の点検のため ・血糖測って目安がわかる ・ぐうたらにならないように ・コントロールのため ・血糖測定してもらって食事・運動の調節をする ・今後の判断材料にするため ・血糖聞いて安心できる ・血糖測定結果を眼科D r. へ伝える
その他	<p>患者会への参加のため</p> <p>D r. の指示</p> <p>知り合いの紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・役員だから ・会費納めるため ・いのはな会（患者会）ができたから ・D r. に言われたから ・知り合いに紹介してもらったから